



2022年2月14日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ ホスピタリティグループ
代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン
(コード：9704、東証第1部)
問合せ先 財務経理部 部長 石井 伸幸
(TEL. 03-3436-1860)

連結および個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

2021年12月期の連結業績および個別業績の前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2021年12月期通期連結業績と前期実績値との差異(2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 3,316	百万円 △1,371	百万円 △1,354	百万円 △1,194	円 銭 △4.70
当期実績(B)	3,357	△1,367	△1,351	△1,683	△6.63
増減額(B-A)	41	4	3	△489	
増減率(%)	1.2%	—	—	—	

2. 2021年12月期通期個別業績と前期実績値との差異(2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 954	百万円 297	百万円 316	百万円 △1,552	円 銭 △6.11
当期実績(B)	75	△710	△621	△786	△3.10
増減額(B-A)	△879	△1,008	△938	765	
増減率(%)	-92.1%	—	—	—	

3. 差異の理由

(1) 連結業績

当連結会計年度における連結売上高は前期に引続き新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を受けた結果、前期を僅かに上回る3,357百万円となりました。費用面では、引続き当社グループは全面的なコスト削減に取り組んでおり、その結果、営業損失は1,367百万円

(前年同期は営業損失 1,371 百万円)と僅かに改善いたしました。営業外収益として、持分法による投資利益 106 百万円、為替差益 57 百万円等を計上しましたが、前期に計上した還付消費税等が当期は発生していないこと、アゴーラ東京銀座にまつわる開業費償却が増加したこと等により、経常損失は 1,351 百万円(前年同期は経常損失 1,354 百万円)となりました。さらに、特別損失として新型コロナウイルス感染症による損失が 204 百万円(前年同期は 349 百万円)と大きく減少したこと、固定資産の減損損失 167 百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失は 1,683 百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失 1,194 百万円)となりました。

(2) 個別業績

売上高は、2020 年 12 月期において連結子会社における信託受益権を譲渡したことに伴い、匿名組合分配収入を計上したことにより、売上高は 954 百万円を計上いたしました。2021 年 12 月期においては、引続き新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響を受けた結果、宿泊事業からの匿名組合分配収入の計上がなかったことにより、75 百万円となりました。

費用面においてはコスト削減に努めたものの、売上原価に宿泊事業に係る匿名組合配当原価 179 百万円を計上したことにより営業損失は 710 百万円、経常利益は 621 百万円を計上いたしました。また、特別損失として、上記固定資産の減損損失 167 百万円を計上したことにより当期純損失は 786 百万円となりました。

以 上